



東地中海地域ニュース

イラン情勢(7) : 続く抗議行動とイラン政府の対応

研究員 山崎 和美

最高指導者ハーメネイー師による選挙不正否定とアフマディーネジャード大統領支持の表明にもかかわらず、ムーサヴィー元首相を支持する改革派による抗議活動は続いている。ただ、革命防衛隊による警告や逮捕者の増加、メディア規制などにより、その規模は縮小している。一方でイラン政府は、抗議行動を西側諸国による「内政干渉」の結果だと見なし、反発を強めている。

続く抗議活動(20、21、22日)と政府側の対応

改革派によるデモは20日午後4時、エンゲラフ(革命)広場を起点に開催される予定であった。だが同2時、一帯は裏道も含めて武装した警官や私服の民兵組織バスイージのメンバーが埋め尽くすほど配備されており、改革派は当初予定した抗議デモを直前に中止した。それにもかかわらず、手首にムーサヴィー元首相の支持者であることを示す緑のリストバンドをした約50人が近づいたが、治安部隊により追い払われた。その約2時間後、周辺には合わせて数千人に達する支持者が、各所に分かれて治安部隊と衝突した。

イラン国営テレビは21日、20日に暴徒化した元首相支持者が給油所などに火を放った他、軍施設を襲撃し、13人が死亡、100人以上が負傷した、と伝えた。米CNNテレビは、死者150人という未確認情報も伝えている。

21日、テヘラン市内には治安要員が展開し、国営放送局の本部を包囲した。そのため、商店の多くが閉店したり、通常より閉店時間を繰り上げた。しかし、市民が撮影したビデオには、「恐れるな、我々是一緒だ」などと氣勢を上げながら大通りを行進する群衆が写っている。テヘラン南部のアーザード(自由)大学でデモがあり、学生のボイコットにより試験が延期された、という。

22日夕も、ムーサヴィー元首相を支持する市民たち約1000人がテヘラン中心部の広場に集結した。治安当局は催涙弾を撃つなど強制排除に動き、AFP通信によると最大で60人が逮捕された。

革命防衛隊は、抗議行動を「非合法的活動」と見なし、「暴徒」への武力行使も厭わないと警告している。「(改革派の)抵抗はイランに対する(外国勢力が支援する)陰謀であり、抗議行動を続けるなら、我々と対決することを覚悟せよ」とも通告した。

抗議行動継続のよびかけ

ムーサヴィー元首相は20日、ウェブサイトを通じ、アフマディーネジャード大統領側が数カ月前から不正工作を計画していたと主張し、改めて選挙結果を無効とするよう求

める書簡を当局側に送付したことを明らかにした。

現地の政府系放送局プレス TV は、大統領選挙を管理した護憲評議会が 20 日に開催した選挙の不正事項を聴取する会合に、対立候補のうち改革派のムーサヴィー元首相とキャッルービー元国会議長が欠席したことを報じた。保守派のレザーイー元革命防衛隊司令官は出席した。

死者数増大を懸念して、当初抗議デモ中止を呼びかけた元首相であったが、21 日の時点では抗議デモの継続を求めた。元首相はウェブサイトにて声明を掲載し、「(選挙での)偽りや詐欺に抗議するのはあなた方の権利だ」などと支持者たちに訴える一方、治安部隊に対してはデモ隊への攻撃を控えるよう要求した。ムーサヴィー元首相は「体制側が平和的な抗議活動を認めないなら、その結果について責任を負うだろう」と主張している。

一方政府側は、「デモでの死者が増大すれば、その責任はムーサヴィー元首相が負うことになる」と警告しているが、これに対して元首相は支持者たちに、自身が逮捕された場合にはゼネストを行うよう呼びかけている。メフル通信によると、改革派のハータミー前大統領も 21 日、「人々が文明的な方法で要求を表現するのを阻止すれば、危険な結果を招くだろう」と当局の対応を批判した。

キャッルービー元国会議長は 22 日ウェブサイトを通じて声明を出し、選挙の不正を訴える抗議デモに参加し、体制側との衝突で死亡した人々を追悼する式典を 25 日に開催する考えを示した。抗議行動を続けるムーサヴィー元首相に歩調を合わせた形である。

元大統領の娘の逮捕

プレス TV は 21 日、「暴動を煽った」との理由で、ラフサンジャーニー元大統領の娘ファーエゼ・ハーシェミーさんを含む家族 5 人が当局に拘束されたと伝えた。ファーエゼさんは 21 日に釈放され、残り 4 人も先に釈放されたという。ファーエゼさんは 16 日、ムーサヴィー元首相の支持者がテヘラン市内の国営テレビ局前で抗議行動を実施した際、支持者に向かい演説を行った。ラフサンジャーニー氏は最高指導者の人事権を持つ専門家会議議長だが、ムーサヴィー氏を支援している。(注：専門家会議 = 最高指導者を選出するムジュタヒド 86 名から構成され、任期は 8 年であり、普通直接選挙により選出される。ムジュタヒド = イジュティハードを用いる人のことで、伝統的にイスラーム法学者がなる。イジュティハード = コーランや預言者ムハンマドの言行録スンナといった法源を解釈することで合法的な決定をすること。)

イラン政府による西側諸国批判

モッタキー外相は 21 日の在テヘラン外交団との会談で、欧米による「内政干渉」や西側メディアの報道を批判した。時事通信によると、在テヘラン外交筋は「選挙をめぐる情勢の混乱が収束するまでには時間がかかる。イランは欧米諸国に対する不信感を強めており、すぐに対米交渉に進むのは一層困難になった」と分析している。同外相は 21 日、大統領選挙で不正が行われた可能性はほぼないとし、抗議活動を続ける改革派に反論した。また、ケニアやジンバブエを例に挙げながら、西側諸国が期待する民主主義のモデルは、途上国のそれとは異なるとの認識を示した。

イラン外務省報道官は 22 日、記者会見において、「社会的混乱や破壊行為を拡大させ

ようとする西側諸国の振る舞いは容認できない」とし、「欧州の多くの国や米国は、人々が民主的な仕組みに訴えるように仕向ける代わりに暴徒を支持している」と批判した。また、諸外国における選挙への抗議運動により、イランの外交が阻害された、とも述べた。外国の大使にイランからの出国を命じる可能性についての質問には否定も肯定もせず、可能な措置を検討している、とした。

ラーリージャーニー国会議長の発言

20日、同国会議長は国営イラン放送に対し、選挙管理当局が特定候補に肩入れしていることを示唆した。議長は、選挙結果の承認権限を持つ護憲評議会の構成メンバーに聖職者が含まれているものの、「特定のメンバーが特定の大統領候補者を支持していないことを、わたしは望む」と具体的な名指しを避けながら語った。

護憲評議会による判断

プレス TV は 22 日、大統領選挙の監督機関である護憲評議会が、落選した候補者たちの申し立てを受け票の再集計を行った結果、国内 50 都市で票数が有権者の数を上回っていたことを明らかにした。しかし、現職のアフマディーネジャード大統領が当選した選挙結果に影響はない、としている。ムーサヴィー元首相とキャッルービー元国会議長が選挙のやり直しを求めている他、保守派のレザーイー元革命防衛隊司令官は、170 都市で不正があったとして、一部の票の再集計を求めている。護憲評議会は、レザーイー氏が指摘した都市の一部で票数が多かったとの判断を下す一方、これらのことで数字が当落を覆す可能性はない、との見方を示した。ただし、「法的手続き」を通した申し立てについては、今後も引き続き調査を進める、とした。

海外メディアに対する規制強化

英 BBC 放送によると、21 日、イラン当局は BBC のテヘラン支局長を国外退去処分にした。

アラブ首長国連邦ドバイを拠点とする衛星放送アル・アラビーヤのテヘラン支局は、イラン政府から、今後通達があるまで閉鎖するよう命じられた。

米誌ニューズウィークは、10 年来イランに在住して取材活動を行っていたカナダ人記者が、テヘランでイラン当局に拘束されたと発表した。同誌は、公正な報道に携わってきた記者を逮捕状なく拘束したことを強く非難し、イラン政府に即時釈放を求めるとともに、無実のジャーナリストを拘束することは「報道の自由の侵害」と主張した。

ウェブサイト写真ギャラリーを開設している米誌ライフも、イラン人フォトジャーナリストが行方不明になっており、政府に拘束された可能性がある、との見方を示した。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799